

アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんが綴るふるさとエッセイ

## —あいなん音故地新— 「台風が過ぎて(前編)」

ラグビーW杯で日本中が歓喜に沸く中、私たちを試すように台風19号が大きな渦を巻きながらゆっくりと、大量の雨と風で山や川を削りながら去っていった。

テレビでは何日も前から警告を放ち、もしもの事態に備えて避難用リュックや非常食を見直した。直撃する前日のスーパーやコンビニは水やインスタント麺、パン、電池は売り切れ。東京はちょっとしたパニック状態。

雨戸を閉めたくても雨戸はついてないのが関東圏。ダンボールと養生テープで窓を補強した。お昼過ぎから吹き始めた風は夜遅くまで続いて、完全に覆ったと思えた窓の隙間からは吹き付けた雨が入り込んで、気付いたときには寝室は水浸しやった。大丈夫やと思っててもそれ以上のことが起こってしまう。水浸しなんて可愛いもんやけど。

翌日から休むことなく被害を伝えるニュースが流れた。前もって分かっていた台風でさえたくさんの方が命を落とした。これが地震なら?津波なら?突然やってくる天災に私たちはどう立ち向かう?みなさんはどんな備えをしますか?(つづく)

(テノヒラkiku)



### あいなん逸品図鑑 その⑮



「ひめの凜(米)」



愛媛CATV  
動画

水稲農家 太田吉彦さん(増田)

増田地区でヒノヒカリを中心に水稲栽培をしている太田吉彦さん。今年には愛媛県が開発した新品種の米"ひめの凜"の栽培に取り組んでいます。「パネル展示で見かけて興味を持っていたが、試食してみるとすごくおいしかった」ことから自身での生産を決意しました。

町内では太田さんを含めて5軒の農家が"ひめの凜"を栽培しており、昨年の試験栽培を経て今年が初めての出荷となります。「台風などでも倒れにくく、暑さに強いので、もみすりをした後でも白くなりにくい」と話す太田さん。透明感のあるきれいな米が仕上がります。

味の特徴は甘みがあって舌触りが良く、「ブランド米にふさわしい高級感のある味」と自信を持って薦め、「食べた方からの評判も良いので、このお米をもう少し増やして作っていきたい」と今後の規模拡大にも意欲を見せました。



▲愛媛県が16年かけて開発した新品種の米"ひめの凜"の稲刈りを行う太田吉彦さん。



▲10月上旬に実りを迎えた"ひめの凜"。太田さんは約1haの規模で栽培しています。